

## 竹島 / 独島関係史・資料目録

福原裕二（竹島問題研究会委員）

### 問題の所在と若干の解説

ある研究課題に対する関連文献の収集及び先行研究の動向把握は、研究者にとり必須の作業である。それは、精緻な研究を組み立て、蓄積していくためにも、また重複した問題提起及び資料による研究を避けるためにも必要であることは言うまでもない。本研究会の研究課題である「竹島」（韓国名：独島）においてもそのことは例外でない。しかし、管見の限り、日本の竹島研究はほぼ二、三十年間に涉り空白状態のままであり<sup>1</sup>、また国内において、まとまった資料収集も行われていない状況である<sup>2</sup>。研究の進展・深化以前に、この事実を認識することが必要であり、克服を要する喫緊の課題でもある。

しかし、上記の克服が行われていないために、日本における「竹島研究」は、総じて次のような傾向が見られるように思う。第一に、依然として大熊良一、川上健三、太寿堂鼎、田村清三郎、皆川洸といった、1960年代から1970年代にかけて活躍した竹島研究者の研究枠組みに立脚するか、その研究に依拠しているという傾向である。第二に、いわゆる「李承晩ライン」の宣布（1952年1月18日）以降、日韓間で交わされた口述書（1950年代から1970年代）に対する内容検討に終始しているという傾向である。第三に、最新の研究や韓国の研究を十分に咀嚼した形跡がないという傾向である。この傾向はさらに言えば、日本の研究や資料しか活用していないという難点に通じる。第四に、二次文献以降の資料のみを活用し、加えて必ずしも出典の明確でないものが多いという傾向である。

とはいえ、こうした傾向を打開し、第一次資料に基づいて新たな視角から研究を行う研究者がおり、その成果が散見されることも付言しなければならない。但し、こうした真摯な研究は、独力で膨大な史・資料を渉猟しているのであり、日本の研究を呪縛していると思われる本質的な問題が解決された結果ではない。

そこで筆者は、「竹島」に関する学術的で多角的な調査研究を行う土台構築と「竹島問題研究会」の研究活動に資するべく、日本国内及び韓国国内に散在する歴史資料（文献、古地図等）や研究論文（先行研究）その他資料の所在（所蔵）状況を把握した、網羅的な史・資料目録の作成を試みた。日韓両国において、類似の資料目録や史料選などは見られるものの、目録そのものが古く更新されていないか、必ずしも網羅的でなく、かつ書誌情報が

<sup>1</sup> 濱田太郎「竹島（独島）紛争の再検討 竹島（独島）紛争と国際法、国際政治（一）」『法学研究論集』第6号（1997年2月）pp.291-307。そこでは、「わが国の国際法学会が竹島（独島）紛争に興味を失って三〇年以上が経っていると言われる…竹島（独島）に関するほとんどの事情は、この二、三〇年更新されていない」と主張されている（p.294）。

<sup>2</sup> 韓国には、ソウルの国会図書館内に「独島資料室」、鬱陵島に「独島博物館」があり、それぞれ日韓双方の関連資料が保管・公開されている。例えば、独島資料室は雑多で系統的ではなく、不便さは見られるものの、それでも韓国では日韓双方の資料を参照・活用して、勉強することのできる場所が確保されている。それに対して、日本では同様の資料館が存在しない。

正確でない目録が多いからである<sup>3</sup>。この目録の作成により、竹島研究における系統的かつ有用な史・資料の活用が促進されるはずである。

以上のような問題意識に立脚して作成したものが、別添の「竹島／独島関係史・資料目録」である。なお、現時点においては、全資料（筆者の調査による）のほぼ 9 割にあたる約 1,600 点余りの所在（所蔵）状況の確認を終えている。収録総点数では、過去に例のない膨大な目録になっている。ちなみに、目録はウェブ上において見ることができ<sup>4</sup>、またこれら資料の大半は収集（購入、複写製本）し、島根県立大学北東アジア地域研究センター特別資料室に所蔵している。

今後の課題としては、残る 1 割程度の所在（所蔵）状況を把握、新たな史・資料の発掘に努めたい。また、今年度（平成 18 年度）以降も引き続きこの作業は継続され、収集、目録の更新を行うことにしている。

---

<sup>3</sup> 既存の目録類には、次のようなものがある。日本には、大口里子「竹島（独島）関係資料目録」『アジア・アフリカ資料通報』17 巻 11 号（1980 年）pp.15-28。韓国には、梁泰鎮編『竹島関係文献目録（孔版謄写本）』1978 年。梁泰鎮『韓国国境領土関係文献集』甲子文化社、1979 年。梁泰鎮『独島研究文献輯』（雲梁泰鎮研究叢書；第 21 輯）景仁文化社、1998 年。いずれにも、上記したような難点がある。

<sup>4</sup> 以下のアドレスを参照。<http://www.u-shimane.ac.jp/near/tksmtkd.htm>  
なお、ウェブ上では便宜的に、「著作」「雑誌、新聞、論文」「史料」の三項目に分けて掲載している。